



【単元を通して付けたい資質・能力】

- 個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現する力。
- 社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考察し、表現する力。

- ### 【単元の目標】
- 起業するための資金調達や企業経営のためには、家計や金融機関との関わりの中で、業績や将来性だけでなく、CSR や消費者と労働者の権利を守ることなど様々な責任を果たすことが大切だということを理解する。
 - 起業家が起業して経営をするために大切なことについて多面的・多角的に考察し、現代社会の様子や家計・金融機関の役割が企業に与える影響と関連させて表現する。
 - 起業家として、起業して企業を経営するために大切なことについて、単元で学習したことを振り返りながら、情報を取捨選択して追究しようとする。

【単元を貫く課題】 起業家として、どのような企業を、どのように起業して経営することが大切なのか。

【中単元を貫く課題】 様々な企業がある中で、起業家として、企業や経営の資金を確保するために、どのようなことを大切にすればよいか。家計との関わりの中で、企業はどのようなことを大切にすべきか。

【池川中学校全体の取組】

- ▶教科間連携
- ▶授業スタンダードの日常化
- ▶振り返りの充実
- ▶ICTの活用
- ▶カリキュラムマネジメント

振り返りの充実のために全教科で取り組んでいること

- ①なぜ「振り返り」が大切なのかを生徒に伝える
→授業の中で、各学級で、全校朝礼で
- ②「振り返り」の時間を確保する
→1時間完結授業を目指す、最後の5分は振り返り
- ③「振り返り」がしっかりできる授業、めあて・課題の設定、板書づくり・ノートづくりを行う
→板書・ノートを、ICTを活用して教員同士が見合う

11/9 教材研究会

【池川中学校 チーム会より 授業づくりについて】

- ①見方・考え方(比較・関連)を働かせるための工夫
 - ・めあての中で見方・考え方について意識するポイントを提示する
 - ・個々に合ったノートのまとめ方を指導する
- ②対話を通して、考えを練り上げるための工夫
 - ・個人思考の時から「結論」と「理由」を意識してまとめさせる
 - ・グループでの話し合いの際に「結論→理由」の順で説明させる
- ③振り返りの充実
 - 振り返りの意義
 - 1. 「何をどのように学んだのか」を客観的に認知することができる
 - 2. 学びを自分にとって価値あるものにすることができる
 - 3. 学習内容を効率的に身に付けることができる

協議の柱 ①付けたい資質・能力を育成できる単元構成・本時の構成となっているか。
②付けたい資質・能力を育成するために、どのような改善が必要か。

参加者の声より



起業家としての視点で学習していくことで、企業、消費者、金融機関の関係を理解することができる。

企業にとっての信頼とは何か、多面的・多角的に考えさせることが必要ではないか。

各時間において、様々な視点から考えるようにしているので、子どもが見方・考え方を働かせて多面的に考えることができる。

【本単元に必要な学習過程について】

○事実から価値へと向かう過程を経て、社会への関わり方を選択・判断する段階、つまり、社会をつくる段階へと向かっていくことが大切

【第1段階】
「企業や市場とは何か」「企業や市場はどのようにしているのか」などの問い⇒事実を確認させる

【第2段階】
「企業はなぜ、そのような役割を果たしているか/なければならないのか」などの問い⇒事実の背景を考察させる

【第3段階】
「起業家として、起業や経営の資金を確保するために、どのようなことを大切にすればよいか」という中単元の課題⇒今後の展望を考えさせたり、自分との社会の関わり方を選択・判断させたりする

12/9 授業研究会

本時の課題 起業家として、起業や経営の資金を確保するために、どのようなことを大切にすればよいか。

【本時の生徒の様子】

①課題に対して個人思考



②グループで共有



③まとめたことを発表



④振り返りの記述



協議の柱 ゴールの子どもの姿をもとに
①付けたい資質・能力に迫ることができていたか。
②付けたい資質・能力を育成するために、どのような改善が必要か。



生徒の全員分の振り返りを、先生方のiPadに送信し、それをもとに協議



【授業の終末に生徒が実際に記述した振り返りをもとに協議(参加者の声より)】

- ・企業の役割や責任についてこれまでに習得した要素、知識を踏まえて探究できる授業だった。
- ・単元導入時に生徒が「この町にどのような企業があれば助かるか?」という考えを持ってこの授業に臨めば、さらに具体性があったのでは。
- ・企業にとっての「信頼」とは具体的にどのようなことなのか、自分の起業したい会社を踏まえてガバナンス等具体的に深めていくことが必要であったのではないかと。

【参加者アンケートより】

- ・「資質・能力」「見方・考え方」といった言葉が表す具体的な像をまだまだイメージできていないので、今後も学んでいきたいと思いました。抽象と具体を行き来する授業をしていきたいです。
- ・課題→予想→考察の流れを普段から定着させておくことで、生徒が授業をスムーズに受けられていました。単元をデザインする際に、単元を貫く課題をどう設定するかが重要であることを学びました。
- ・授業の流れを可視化し、振り返りの視点を示すこと、また、生徒の振り返りに教師がフィードバックすることで、学びに向かう力、人間性を育成することにつながることを学びました。

【愛媛大学教育学部 井上昌善 准教授 より】

◇授業改善の視点

- 構想を目指す授業づくりの推進
 - *個人や企業の経済活動における役割や責任に着目させた考察
 - 経済活動をめぐる課題についての理解の深化や解決方法の提案を目指す授業づくり
 - *働き方の多様化、家族の多様化、グローバル化、情報化、SDGsなど社会的要請に伴う個人や企業のあり方の変化
 - 【重要ポイント】
 - ①社会の変化に対応する市民の育成
→変化によって生じる問題や課題の考察・理解
 - ②社会の改善、変革に向けて変化を起こすことができる(社会をつくる)市民の育成
→変化によって生じる問題や課題の解決方法の構想・提案
- ◇「経済活動」に関する学習内容をどのように設定するか
→企業の役割は?家計とどのような関係があるの?既習事項である生産・消費の関係をふまえて捉えさせること

【授業者より】

この単元はまだ続くので、例えば、仁淀川町内における起業について考えさせるなどの場面設定を行い、より具体的に生徒が考えられるようにしていきたい。また、企業の信頼関係について、労働者の生活や、消費者の権利とも結び付けながら、生徒に考えさせていきたい。